

平成 23 年度北信越ブロッククラブミーティング 2011 開催報告

日時： [第 1 日目] 平成 23 年 11 月 5 日 (土) 13:00~17:00

[第 2 日目] 平成 23 年 11 月 6 日 (日) 10:00~16:00

会場： [第 1 日目] 「いしかわ総合スポーツセンター」

[第 2 日目] 「NPO 法人クラブパレット」

内容： [1 日目]

- (1) 開会プログラム
- (2) ブースめぐり Part. 1
- (3) ブースめぐり Part. 2
- (4) ブースめぐりまとめ

[2 日目]

- (1) 開会プログラム
- (2) 講演①・グループディスカッション
- (3) 講演②・グループディスカッション
- (4) まとめ

<概要>

北信越ブロッククラブミーティングでは、「クラブをマネジメントできる人材育成」をテーマに、マネジメントマインドとビジネススキルを高める内容として、1 日目に 10 クラブの「魅力のある人」から先進事例をブース形式で発表してもらった。



2 日目は、ビジネスと社会貢献のバランスを保ちながら事業を展開する株式会社キッズベースキャンプ社長の島根太郎氏と、NPO のマネジメント力を崇高なレベルで実践している NPO 法人グランドワーク三島事務局長の渡辺豊博氏から講演をしていただいた。

<討議内容>

【1 日目：ブースめぐり Part. 1】

あわらトリムクラブ 吉田昭博クラブマネジャー (福井県) は「NPO 法人格取得にむけた課題と解決方法」をテーマにクラブが関係者での協議の中で、NPO 法人格の取得を見送るに至った経緯に触れながら、クラブのあるべき姿を求めて活動を続けることの重要性を紹介した。



NPO法人クラブパレット 村本大志プロジェクトマネジャー（石川県）は自身がクラブで主に携わっているサッカー事業とグラウンド芝生化事業の事例を紹介しながら、将来自身がクラブでの雇用を継続する仕組みをどのように創っていくかについての考えを述べた。



NPO法人だいもんスポーツクラブ 高橋清理事（富山県）は「だいもん地域の地域による地域のためのスポーツクラブ」をテーマとして、クラブの立ち上げ経緯、事業概要、運営組織体制や現状課題などを丁寧に整理し、①多世代、②多種目、③受益者負担、④自主運営の4つの柱を掲げた。

高山村総合型スポーツクラブ 深谷照男事務局長（長野県）は高山村の地域特性（自然）を活かした魅力的な事業として、山間部というフィールドを活用したトレッキングやキャンプなどの活動を報告した。また、活動のフィールド整備や事業をプロデュースするためのボランティアグループを組織しクラブの事業をサポートする仕組みについても紹介した。



こいこいスポーツクラブおぢや 澤田隆志クラブマネジャー（新潟県）は事務局スタッフの平均年齢が20代と非常に若いクラブであるがゆえのマネジメント課題について整理を行うとともに、今後は今までにない新たな地域ニーズを生み出していくビジョンを示した。

【1日目：ブースめぐり Part. 2】

NPO法人さばえスポーツクラブ 細川龍雄理事長（福井県）は設立から10年を経過したベテランクラブとして数々の取り組みの中から、県外の協力団体との継続的な交流事業等の事例紹介を通じて雇用を含め、クラブを継続的に運営していくノウハウについて紹介した。



クラブタッチ 尾塩苑クラブマネジャー（石川県）は「クラブで働くということ」をテーマに子ども向けの寺子屋教室、体験イベント、自然体験などの地域ニーズにもとづく多様なプログラム提供から人件費（雇用）を生み出す仕掛けについて紹介した。



五福公園スポーツクラブさくら 森田小由利アシスタントマネジャー（富山県）は「今、この町に咲かせよう さく LOVE♥」と題して、県外出身である自分自身が、会員一人ひとりを大切に、人と人とのつながりに重きを置いたクラブ運営の実践を発表した。

岸野スポーツクラブ 土屋岳クラブマネジャー（長野県）は「クラブで育った子どもがクラブの指導者に」というテーマで、バドミントン教室において、小学生の時から会員だった子が高校生となった現在、指導のアシスタントとして活動している事例を紹介し、クラブにおけるヒトの循環の重要性を述べた。



NPO法人ネージュスポーツクラブ 中島浩幸クラブマネジャーは地域内の他団体との連携組織である十日市町スポーツコミッション地域再生協議会を設立し、大規模な協働イベントの運営事務局となり、クラブが地域づくりに貢献する実践モデルを紹介した。

【ブースめぐりまとめ】

まとめとして、参加者が3名ずつのグループに分かれて、ディスカッションによるふりかえりを行った。会場から4名の方を選出してディスカッションの内容を発表した。

続いて、地方企画班員から全体をふりかえってコメントした。各クラブにはそれぞれの個性と特徴があり、様々な実情を踏まえながら地域にとってよりよいクラブを目指し続けていくことが重要であるという共通認識によりまとめられた。



【2日目：プログラムに臨む姿勢】

榎 SC 全国ネットワーク常任幹事より、講演を聞くにあたり3つの指針が示された。1つ目はスポーツ選手が日常意識を超えた「Zone」に入る感覚を体感できるようにすること、2つ目は「観る・見る・診る・視る・看る」の多様なミカタをしてみることに、3つ目は基本を忘れないようにするということであった。

<株式会社キッズベースキャンプ社長島根太郎氏の講演>

株式会社キッズベースキャンプは、東京で未就学児の認可外保育や小学生の放課後学習プログラムを行ない、都内での営業拠点を拡大している。主に理念、コンセプト、ビジネスモデル、マーケティングについてお話しいただいた。

1. ハードではなくソフトに投資する

本事業は、子どもに接する「指導者（教育者）」の質保証が最大の核となる。そのため、「指導者（教育者）」の採用と人材育成に多くの資源を費やしている。採用については、「資格より経験、経験より人格」を基準として人材を採用する。子どもの指導力に長けているだけでなく、マネジメント力のある人



材を採用・育成しているとのことだった。また、子どもだけでなく保護者に対して配慮できる人材を育成している。人材育成は、導入研修（2か月）、フォローアップ（半年）、階層別研修、OJT、分野別研修と多岐にわたっているとのことだった。

2. 現代の日本社会の抜け落ちているところを拾う

保護者（顧客）のニーズを的確にとらえた事業を行っている。例えば、1）22時まで預かる、2）送迎を行う、3）食事を提供する、4）習い事の中抜けとして宿題をみるといったサービスを展開しているとのことだった。

【NPO 法人グランドワーク三島事務局長渡辺豊博氏の講演】

渡辺豊博氏は、静岡県庁職員を辞してNPO法人の事務局長をしている。県庁職員時代に、行政の様々な矛盾に霹靂してNPO法人で、身体をはって「組織や上（上司）のための仕事ではなく、市民のための仕事」を実践している。



1. 情緒的運動では通用しない

狭小な市民団体ではなく、核をしっかりと持ち、「何のためにNPOを作ったのか」の初心を見失わないようにすることが大切とのことであった。

2. 情報収集のマネジメント

自己陶醉に陥ることなく、絶えず情報収集に努め、自らを振り返る評価マネジメント能力を持つことや、目線は絶えず市民や町内に向けながらも、政治家や行政をうまく動かす力が必要とのことであった。その他、怒り（パッション）のマネジメント等、本報告でまとめきれない多くの示唆があった。



<まとめ>

会員数や事業規模に関わらず、「魅力あるクラブ」には必ず「魅力ある人」の存在がある。クラブを愛し、会員を愛し、心から地域を思う情熱がその魅力の原点となっている。今回のブロックミーティングでは1日目の各ブースの発表者、2日目の講演者の選定の段階から「人の魅力」を重視した。魅力ある発表者の情熱に共鳴し、参加者の熱が上がっていくことを強く感じる事ができた。

（報告：北信越ブロック 地方企画班長 西原康行、地方企画班員 西村貴之）